

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【人文社会系】

筆記試験や授業能動や宿題(基本的にシラバス通り)。

すべての授業で、出欠はとっていますので、出欠も成績評価の際の判断基準にしています。地誌概説Ⅰでは最後の試験成績を80点満点として、出席点を20点としました。欠席の回数により出席点から減点を行い、総合成績としました。地誌概説Ⅰでは8人(6.8%)が不合格(内途中放棄者は4人)でした。試験結果としては、予想より悪かったという感想です。その他の授業では発表内容と出欠により成績評価を行いました。

学期末に行った筆記試験と出席状況

1発表内容、2発表資料、3発表態度、4質疑応答の態度・参加度合い、5レポートを総合的に判断した。ただし、5は、1および2の内容をレポートにする。5の評価基準としては、レポートしての要件と、1および2で指摘された改善点がどこまで達成されているかをその指標としている。4の達成度が低い場合は、減点を行う。

授業に基づく調査の実践、授業内のプレゼン、またテキストの発表と読解力、プレゼン力、授業内討論の参加、また持ち込み可のテストを実施した場合は、理解力、叙述力など。

レポートをメインに、授業態度(欠席数等)を加味した。

班別レポートと期末テストをメインに、授業態度(欠席数等)を加味した。

レポートをメインに、授業態度(欠席数等)を加味した。

日々の小テストおよび定期的な課題を総合的に評価している。

論述問題においては、情報の正確さ、論旨の整合性、視点の多様性から採点を行った。設問ごとに、解答の基準をつくり、どれだけクリアできているかに応じて、A+・A・B+・B・C・Dとレベル分けをし配点した。また、授業中の感想などの小レポートや、授業中での積極的な発言などで優秀だった学生に対しては加点を行った。

レポート評価を中心に、授業態度・出欠状況・発言回数などを加味して、総合評価した。レポートは、①自分の頭で考察しているか②論立てができていないか、の2点を重視し評価した。古今集の四季部・恋部の短歌を正確に読解させるこの演習は極めて難易度が高い授業であったが、受講生達はよく頑張ってくれた。

最終レポート内容を重視したが、それだけではなく、毎時間提出された意見文の内容も踏まえて、講義の理解度を確認しながら成績を出した。欠課数があまりにも多い者に対しては、低評価とした。

主としてレポートと発表。レポートについては指示した内容がきちんと踏まえているかどうか。発表については、テキストに載っている以上をどれだけ調べるか、特殊な用語や難読の人名、固有名詞も多いので、きちんと調べて発表できているかを重要視した。テキストをしゃべっているだけではどうしても評価を下げざるを得ない。とりかかりにくい内容ではあるものの、よく調べようとしてくれたのはわかるが、もっと調べられるのでは?と感じる。

ジャズの歴史には、歴史の流れが変わるような分岐点となる出来事がいくつかあるので、そうした歴史上の重要な出来事の概要と、その歴史的な意義を十全に理解しているかどうかを計る記述式の試験をし、その理解度に応じて成績をつけた。

異文化コミュニケーション論では、授業中に書かせる課題(6回)、宿題として課したレポート(最初に出した課題を、改訂させて二度出させるようにした)などで評価した。
言語学研究Iでは、ほぼ毎回の小テストによって評価した。

成績については、ゼミ中の参加度、予習の程度などを軸とし、最終レポートの結果を加味して判定した。なお、最終レポートについては、添削を行い、個別に指導していければと考えていたが、一部の学生については個別指導が後期にずれこんでしまっている。
4年生の卒論指導をしていて痛感することだが、1年次からの継続的な論文指導はやはり必要である。だが、教員の負担が大きくなることも事実であり、どのようにして体系的に「書く」訓練を実施していくかは今後の課題である。

「日本民俗文化概説」では、授業期間中に、自筆ノート持ち込み可の中間筆記試験をおこない、学期末にノート持ち込み不可の期末筆記試験をおこなう。中間試験の結果約40%、期末試験の結果約60%の合計で成績を出している。
「日本史特論Ⅲ」では、ノート提出と、授業の内容の延長線上に各自にテーマを設定させて、自らが民俗事象について図書館や博物館などで調べるといった課題のレポートにより成績を出している。

授業目標の根源的なところについて受講者なりの理解が得られたのかどうかを、試験や通常の授業に対する参加態度等によって評価した。

一回の発表につき、①朗読の表現力②資料調査③地図や図版の活用④考察の充実度の四つの観点で点数化することを学生に告げ、導入の段階でその具体的な規準をプリントで示した。各学生の成績は、二回分の発表の点数の合計に、質問や意見の回数を点数化して加点し、それを基準に判定した。

シラバスに記載してある通り、課題のレポート、授業中の発表と質疑応答、出席率を総合的に判断して成績を出している。欠席について、本学には忌引きなどの制度がないが、事前に連絡があり、やむを得ないと判断される欠席は配慮している。

授業中の発表、期間途中のレポートと最終レポート、学期末試験、及び授業への積極的な参加を総合的に判断した。

定期試験に加えて、中間試験(確認テスト2回)、出席状況

丸暗記したものをそのまま書くというのは、授業目的にも沿わない上に、何より思考力、構成力、文章力の養成に全くつながらないので、論述式の試験ではあるが、できるだけ大きなくりで予めテーマを予告しておき、それをもとにして試験準備をしてもらい、実際の試験では、各自が独自に設定した小テーマについて、分量を設定せず、自由に論述してもらい、その内容を吟味し、成績を出した。どのような小テーマを設定したかも評価の要素とした。斬新な発想にはそれなりの評価を与えた。

平常授業の際の予習状況、レポート試験ともに100点満点で評価し、シラバスで記した通り、平常点60%、レポート40%で計算した。おおよその規準としては、優れていると判断できるラインを80点、若干足りない点はあるが一定の努力は見られるラインが70点と設定している。

シラバスの記述通り、平常点10%、課題20%、学期末試験70%で評価した。将来漢文教育に携わることを想定し、実際にきちんと書き下しや日本語訳といった漢文教育のために基本的な力が身につけているか、また授業中に説明した基本的知識を覚えているかを重視し、試験中心で評価している。

試験であれば、出された問いに対応する答えができていのかどうか、正しい答えができていのか、総じて伝える能力が高いかどうか、という点を見ている。
集中講義等であれば、授業でのアクティビティが中心となるため、活動を評価している。

授業のために使われる週当たりの学習時間は少ないような気がするため、定期的に課題等を課することを考えるか、あるいはグループワーク等、課外で集まらざるを得ないものを導入するか、今後は授業外でのことにも意識を持ちたい。
ただし、少し忙しすぎるため、実現は難しいと考えている。

出席(30%)、定期試験(70%)の割合で成績を決定した。ほぼ9割の学生が授業を欠席することなく講義に参加していただいたので、定期試験についても優秀な結果となった。

レポート(講義内容を理解できているか、それを自分の言葉で表現できているか、が重要。その上であれば、批判的な評価も歓迎する)
平常点(出欠、受講態度など。当たり前にも人の話を聞いていられるかどうか程度のラインしか引いていないので、こちらは基本的に甘くなっているはずである)

普段からの授業態度と小レポートおよび学期末試験の評価をもとにして成績を評価した。

出席状況を加味するが(欠席過多は失格)、基本的に期末試験の点数で評価した。

出席点、授業参加度、コメントシート、期末レポートによって総合的に評価した。

出席点、各種課題、小テスト、レポートによって総合的に評価した。

・発表およびコメントシート:分量と質(90分間発表しきることができたか、独自の考察が含まれているか、その考察には客観的な根拠があるか、レジユメの形式は守られているか 等)。
・レポート:発表時に指摘した問題点が改善されたか。
・くずし字:ひらがなが習得できたか(最終テストにおける正答率で算出)。
以上の点を総合的に判断した。